

成果の説明書

(氏名) 唐澤達之	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 科学研究費助成事業基盤研究(b)「工業化以前の都市の機能と経済発展：「長期の」18世紀イギリスを中心として」(研究代表者：山本千映 [大阪大学])による研究</p> <p>2020年度より3年間、標記研究課題が科学研究費助成事業に採択され、研究分担者として参加している。本研究では、イギリス都市史の個別実証研究の成果を総合し、都市に居住することの効用という観点から都市化のメカニズムについて定性的な分析を行うとともに、工業化に先立つ都市化の要因を可能な限り数値データでそろえ、計量分析を行うことを目的とする。</p> <p>昨年を引き続き本共同研究で対象とする54都市の給水システムの整備状況について、2次文献を中心に整理する作業を進めるとともに、2022年度の研究会(2023年3月7日オンライン開催)では、本研究の分担者である道重一郎著『イギリス消費社会の生成：18世紀の都市化とファッションの社会経済史』(東洋大学出版会、2022年)の合評会(ディスカッサントは中野忠氏と大橋里見氏)と、永島剛氏による報告「18世紀都市の医療機能—1783年医師登録簿の分析へ向けて」が行われ、有益な議論に加わることができた。また、本研究の成果の一端は、イギリス中世史研究会(2022年5月23日オンライン開催)において、「19世紀前半ロンドンの給水事業と公益」として報告する機会もあった。</p> <p>当初の計画では、8月下旬にロンドン市文書館とイギリス国立公文書館においてロンドンの水道会社に関連する史料の収集を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響や学内業務(特に大学の認証評価受審の対応)のためにできなかった。ただし、コロナ禍以前に収集した近世ロンドンの代表的な水道会社のひとつであるチェルシー水道会社の会計記録や理事会議事録の転写及び分析を継続するとともに、ロンドン市文書館から史料の画像データを提供してもらうことで、新たな史料を入手し分析できた。さらに、2次文献のサーベイにより、近代ロンドンの水道事業の歴史的役割を評価するための新たな方法視角を検討し、都市ガバナンスという観点の導入を着想するにいたった。</p> <p>(2) 聖人崇敬の歴史に関する研究</p> <p>ヨーロッパを中心にアジアやアメリカ、アフリカにも視野を広げて、世界におけるキリスト教の聖人崇敬の歴史的意味の展望を行い、今後の個別研究進展に役立つ基本書の出版(2024年度に刊行予定)を目的とした研究会が、河原温氏(放送大学教授)と池上俊一(東京大学名誉教授)によって本年度立ち上げられ、イングランド王国の守護聖人である聖ジョージについての研究を担当することとなった。聖ジョージがイングランド王国の守護聖人となる経緯、イングランド王国の守護聖人として果たした役割、中近世の都市やギルドにおける聖ジョージ崇敬の帰趨などについて研究を進めた。</p> <p>(3) 学会における活動</p> <p>比較都市史研究会の幹事として、例会の企画運営、会誌『比較都市史研究』の編集刊行、会計の管理などに関わった。</p> <p>(4) 大学行政関連業務</p> <p>副学長(研究担当)として、学内の種々の委員会を主宰し、全学的な観点から本学の改革・発展の推進に関わった。2022年度は特に、大学教育質保証・評価センターによる認証評価の受審への対応(実地調査に向けての準備など)の学内責任者として業務を推進した。また、第2期中期計画の最終年度に当たって事業の最終的な仕上げを行うとともに、第3期中期計画の策定に関わった。さらに、本学の重要な地域貢献・地域連携事業を担う、まちなか教育活動センター運営委員会と学生ボランティア活動支援室の事業を、委員長(室長)として推進した。</p>	

2 その他の事項

3 次年度以降の計画・抱負

(1) 研究関連

①2023年度より4年の研究期間で科学研究費助成事業基盤研究(c)「都市ガバナンスからみた19世紀ロンドンの水道事業の研究」(研究代表者:唐澤達之)が採択されたので、研究計画にしたがい研究を進める。

②科学研究費助成事業基盤研究(b)「工業化以前の都市の機能と経済発展:「長期の」18世紀イギリスを中心として」(研究代表者:山本千映 [大阪大学])は、研究期間が2023年度まで延長されたので、これまでの研究をまとめる作業にとりかかる。

③聖人崇敬の歴史、聖ジョージについての研究を進め原稿を執筆する。

(2) 大学行政関連

2023年度より2年間の任期で、副学長(研究担当)に指名されたので、第3期中期目標・中期計画(2023~2028年度)に基づき、本学の研究活動、地域貢献・地域連携事業全般を推進することが主な課題となる。